

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	学校名 佐倉市立根郷中学校 対象学年 全校 人数 276人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	「心のバリアフリー」プロジェクトの実践を通して、認め合い、学び合い、共に生きようとする心と実践力を持った生徒を育成する。 ・講義、講話を通して、障害を知る。 ・体験を通して障害を持つ方々が日常的に持っている感覚や気持ち等を理解する。 ・福祉施設利用者との交流を通して、さまざまな問題・課題に気づき、福祉を自己の課題として自覚する。
5 取組内容	<p>【車椅子体験講座】</p> <p>地区社会福祉協議会、市ボランティアセンター、市障害福祉課の協力により、車椅子体験を行った。</p> <p>講師から介助に関わる心構えや乗っている人に発生する不安感、段差を乗り越えたり、段差をおりたりするときの介助方法等の講義を受けた後、実際に車椅子に「乗る」「介助する」体験を行った。</p> <p>初めて車椅子に乗り、人の手を借りて介助を受けることので不安感を実感し、障がい者理解へつながることができた。</p>



	<p>【アイマスク体験講座】 視覚障がい者利用施設の協力により、アイマスク体験講座を行った。 アイマスクにより視覚障がいを疑似体験することと、その介助を体験することで、双方に発生する感情や課題を理解していくことを目的とした。 日常生活をおくる校舎内であり、その構造等も理解しているつもりであったが、アイマスクをつけることにより、さまざまな感覚が変化することや介助者がかける言葉によっても対応が変化することなど、コミュニケーションが果たす役割の大きさなども体験から感じ取ることができた。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>障がいを持つ方の状況の一部や介助者を疑似体験することにより、障がいを持つ方の気持ちやその理解に近づくことができる。また、バリアフリーに関わることも日常生活の中で気づくことができるようになった。これらのことは、障がいの有無にかかわらず、相手を思いやる心の伸長にもつながるものである。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>【車椅子体験講座】 ・クラス単位で実施するため、少なくとも生徒数1/2の台数の車椅子の確保に努めた。 【アイマスク体験講座】 ・アイマスクは学校備品としているが、その衛生面について十分な配慮をすることにした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協力外部機関との日程調整については、複数の講師を必要としていることから多くの時間を要することになった。 ・一時的な体験だけで学習を終わらせないために、事前指導、事後指導について十分な計画を立てていくことが必要である。 ・車椅子体験、アイマスク体験ともに、実際の車椅子利用者や視覚障がいをお持ちの方もお招きして講座を開くことができると、さらに充実した内容になるものと考えられる。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>・今後もこのような学習を行い「福祉教育」を本校の特色のひとつとしていくために、継続的に実施していく予定である。</p>